

平成24年度横浜国立大学法科大学院入学試験
小論文試験試験問題（試験時間13：00～15：00）

問題1 次の文章を読んで、下記の問題に答えなさい。

(注)著作権法等の配慮により問題文は割愛します。
なお、問題文は、次の文献から引用しております。
大竹文雄『競争と公平感—市場経済の本当のメリット—』（中公新書、2010年）
プロローグを一部変更して抜粋。
抜粋箇所 vii頁 2行目～viii頁 2行目
viii頁 3行目6字目～36字目
viii頁 4行目4字目～xii頁9行目23字目
ただし、次の箇所は、問1～問3の設問のため削除し、それぞれ下線（1）～（3）として空白表示とした。
下線（1） viii頁12行目38字目～13行目19字目まで
下線（2） ix頁 9行目 9字目～32字目まで
下線（3） ix頁12行目35字目～23字目まで

問1

下線（1）に入る、筆者のいう経済理論に基づく正しい選択肢とは、どのようなものか。（30字以内）

問2

下線（2）には、筆者のいうオリンピック方式での漁師の合理的な行動が説明されている。どのようなことか。（30字以内）

問3

下線（3）には、漁期と漁獲量の上限について漁業規制が実施されている結果、日本の漁師が一般的に行っている戦略が記述されている。筆者が指摘しているのは、どのようなことか。（60字以内）

問4

小泉純一郎内閣の時代においては、本文に記述されている経済理論に基づいて、規制緩和と官から民への事業移転による競争促進の政策が実施され、結果として、経済活動の活性化と景気回復が達成されたが、反面、人々の間で所得格差が生じてしまった。その原因はどこにあると考えられるか、筆者の主張する経済理論に即して理由を述べなさい。（150字以内）

問題2 次の文章を読んで、下記の問題に答えなさい。

(注)著作権法等の配慮により問題文は割愛します。
なお、問題文は、次の文献から引用しております。
アマルティア・セン著、池本幸生・野上裕生・佐藤仁訳『不平等の再検討～潜在能力と自由』（岩波書店、1999年）、第4章「自由、エージェンシーおよび福祉」より抜粋。
85頁3行目～86頁14行目
90頁6行目～91頁8行目38字目

問1

著者は「エージェンシー」の語をどのような意味で用いているか。社会的弱者保護を行おうと考えている弁護士の例を用いて説明しなさい。（200字以内）

問2

下線部での「エージェンシーとしての達成」、「自分自身の福祉の達成」、「エージェンシーとしての自由」および「自分自身の福祉のための自由」の四者の関係について、筆者の見解を説明しなさい。

説明にあたっては、著者が挙げた下記の例における医師のおかれた新しい状況に具体的にあてはめつつ、例えばそれぞれの自由がどうして向上するのか、また低下するのか述べなさい。さらに犯罪予防の例とも比較しつつ答えなさい。（600字以内）

（下線部に該当するのは、86頁2行目1字目～3行目39字目）

（「著者が挙げた下記の例」に該当するのは、92頁9行目14字目～92頁末尾）